2012年3月期 決算説明会

2012年5月16日
宝ホールディングス株式会社

本日の内容

1. 宝ホールディングス連結
   - 2012年3月期 決算レビュー
2. 宝酒造グループ
   - 2012年3月期 決算レビュー
   - 2013年3月期 活動計画、業績予想
3. 宝ヘルスケア社 概況
4. 宝ホールディングス連結
   - 2013年3月期 業績予想

1. 宝ホールディングス連結

2012年3月期 決算レビュー

TaKaRaグループの中長期戦略

TaKaRaグループ・ビジョン2020（2011年度～2020年度）	経営目標	国内外の強みを活かせる市場で事業を伸ばし、環境変化に強いバランスのとれた事業構造を確立する。

◆TaKaRaグループ中期経営計画2013 （2011.04~2014.03）

基本方針	「TaKaRaグループ・ビジョン2020」の実現に向けて、国内での安定成長を実現するとともに、海外で大きく成長するための事業基盤を拡大する。
定量目標	2014年3月期 TaKaRaグループ 連結売上高 2,000億円以上、営業利益 100億円以上 海外売上高比率 10%以上、成長事業＋育成事業売上高比率 25%以上

事業の位置付けと事業方針

基盤事業	●国内酒類事業	中核事業として収益力の強化に取り組み、グループの成長を支える。
成長事業	●海外酒類事業、日本食材卸事業 ●調味料・酒精事業 ●遺伝子工学研究事業	成長が見込まれる市場で、積極的に事業拡大を図り、グループ全体の成長を牽引する。
育成事業	●健康食品事業 ●遺伝子医療事業	成長が見込まれる市場で、次期の成長事業化を目指し、事業基盤の確立に取り組む。

風土・人財の育成 ／ グループ経営基盤の強化 ／ 社会・環境行動の推進

財務方針	健全な財務体質を維持しながら、成長・育成事業への投資と、積極的な株主還元を実施し、ROE（自己資本利益率）の向上を目指す。

宝HLD連結_P/L概要（2012年3月期）

◆総括

- 東日本大震災による経済活動への影響に早期に対応し、増収・増益。過去最高の売上高を達成。
- 連結売上高・連結営業利益・連結経常利益・連結当期純利益の全てにおいて業績予想を上回り、4月26日に業績予想の修正を発表。
- 積極的な株主還元を実施 ：株主還元総額2,921百万円、株主還元性向51.7%
  配当金を8.5円→9.0円に増配（配当総額1,851百万円）、220万株（1,070百万円）の自己株式取得（2011年11-12月）

（単位：百万円）	12/03期 実績	前期比 増減	前期比 率(%)	1/30予想比 増減	1/30予想比 率(%)
宝酒造G	175,503	8,713	5.2	1,403	0.8
タカラバイオG	19,578	840	4.5	△ 21	△ 0.1
宝ヘルスケア	2,338	△ 229	△ 8.9	△ 61	△ 2.6
その他	1,269	△ 403	△ 24.1	△ 29	△ 2.3
売上高	198,690	8,921	4.7	1,290	0.7
売上原価	121,462	5,982	5.2	962	0.8
売上総利益	77,228	2,939	4.0	328	0.4
販管費	67,963	2,009	3.0	△ 336	△ 0.5
宝酒造G	6,768	199	3.0	68	1.0
タカラバイオG	1,547	449	41.0	246	19.0
宝ヘルスケア	△ 114	137	―	5	―
その他	1,063	142	15.4	344	47.9
営業利益	9,264	929	11.2	664	7.7
経常利益	9,617	1,189	14.1	717	8.1
当期純利益	3,995	207	5.5	695	21.1

◆グループ別の決算概況

- 宝酒造グループ
  家庭内飲酒の需要を捉えてソフトアルコール飲料を中心に売上を伸ばし、原材料価格の高騰を克服して営業増益を達成。
- タカラバイオグループ
  研究用試薬や細胞医療関連事業（技術支援、培地・バッグ）の売上を伸ばし、3期連続の営業増益を達成。
- 宝ヘルスケア
  利益率の高い健康食品の売上を伸ばし、営業損失を改善。

◆法人税率の変更による影響

- 当期純利益への影響額
  法人税等調整額の増加により、▲656百万円のマイナス影響。

（注） 1/30予想は、2011年11月4日公表の業績予想（11/4予想）から当期純利益のみを修正（法人税率の変更を考慮）したものであり、売上高・営業利益・経常利益につきましては、11/4予想を変更しておりません。

宝HLD連結_営業外損益・特別損益（2012年3月期）

◆営業外損益

（単位：百万円）	11/03期 実績	12/03期 実績	増減
営業外収益	923	1,074	151
受取利息	144	177	32
受取配当金	328	362	34
持分法投資利益	76	49	△ 27
補助金収入	104	193	89
その他	268	291	23
営業外費用	831	722	△ 109
支払利息	227	182	△ 45
社債利息	339	319	△ 19
社債発行費	76	―	△ 76
為替差損	22	68	45
その他	165	151	△ 13
営業外損益収支	92	352	260

◆特別損益

（単位：百万円）	11/03期 実績	12/03期 実績	増減
特別利益	567	446	△ 121
固定資産売却益	72	233	160
投資有価証券売却益	417	2	△ 414
その他	77	210	132
特別損失	1,489	1,473	△ 16
投資有価証券評価損	254	108	△ 145
固定資産除売却損	238	404	165
震災による特別損失	396	754	357
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	424	―	△ 424
係争和解費用	113	―	△ 113
その他	61	206	144
特別損益収支	△ 922	△ 1,027	△ 104

◆震災による特別損失（2012年3月期 実績内訳）

（単位：百万円）

宝酒造（単体）	782
内訳 棚卸資産評価損・廃棄作業料等	430
建物・機械装置修繕料等	44
代替倉庫料等	296
その他	10
その他（連結消去含む）	▲28
合計	754

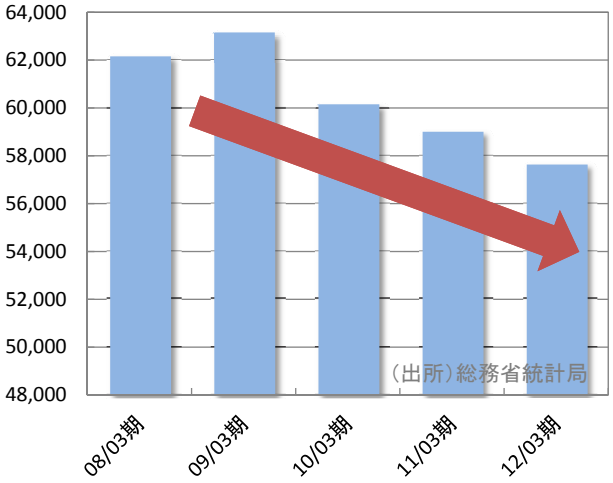
2. 宝酒造グループ

2012年3月期 決算レビュー
2013年3月期 活動計画、業績予想

2012年3月期の事業環境

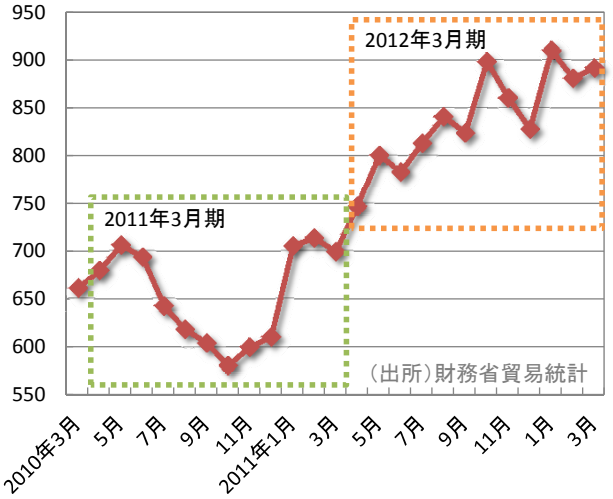
◆酒類の消費動向

➢ 1世帯当たり酒類支出金額の推移 （単位：円）



◆原材料価格の動向

➢ 粗留アルコールCIF価格の推移 （単位：$/KL）



酒類の市場は縮小傾向

原材料価格は高騰

市場のニーズに応える商品群で売上を伸ばし、原材料価格の高騰を克服

宝酒造G_P/L概要（2012年3月期）

（単位：百万円）	12/03期 実績	前期比 増減	前期比 率(%)	1/30予想比 増減	1/30予想比 率(%)
焼酎	73,458	762	1.0	1,258	1.7
清酒	20,967	170	0.8	△ 132	△ 0.6
ソフトアルコール飲料	26,725	4,472	20.1	△ 274	△ 1.0
その他酒類	10,776	1,102	11.4	676	6.7
本みりん	14,718	△ 213	△ 1.4	△ 181	△ 1.2
その他調味料	7,423	332	4.7	23	0.3
原料用アルコール等	6,512	237	3.8	△ 287	△ 4.2
その他	14,922	1,848	14.1	322	2.2
売上高	175,503	8,713	5.2	1,403	0.8
売上原価	110,454	6,251	6.0	1,154	1.1
売上総利益	65,049	2,461	3.9	249	0.4
運送費、保管料	6,725	357	5.6	△ 74	△ 1.1
広告宣伝費	3,342	65	2.0	△ 57	△ 1.7
販売促進費等	31,433	1,587	5.3	233	0.7
研究開発費	371	△ 16	△ 4.2	△ 78	△ 17.3
管理費、その他	16,407	267	1.7	157	1.0
販管費	58,280	2,261	4.0	180	0.3
営業利益	6,768	199	3.0	68	1.0

◆売上高の主な増減理由

（単位：百万円）

➢ 前期比

宝酒造単体の要因

＜焼酎＞

焼酎甲類	+852
焼酎乙類	+343
混和焼酎	▲314

＜ソフトアルコール飲料＞

焼酎ハイボール	+2,398
直搾り	+1,456

子会社の要因

＜その他＞

フーデックス社	+1,682

➢ 1/30予想比

宝酒造単体の要因

＜焼酎＞

焼酎甲類	+578
焼酎乙類	+185
混和焼酎	+509

子会社の要因

＜その他＞

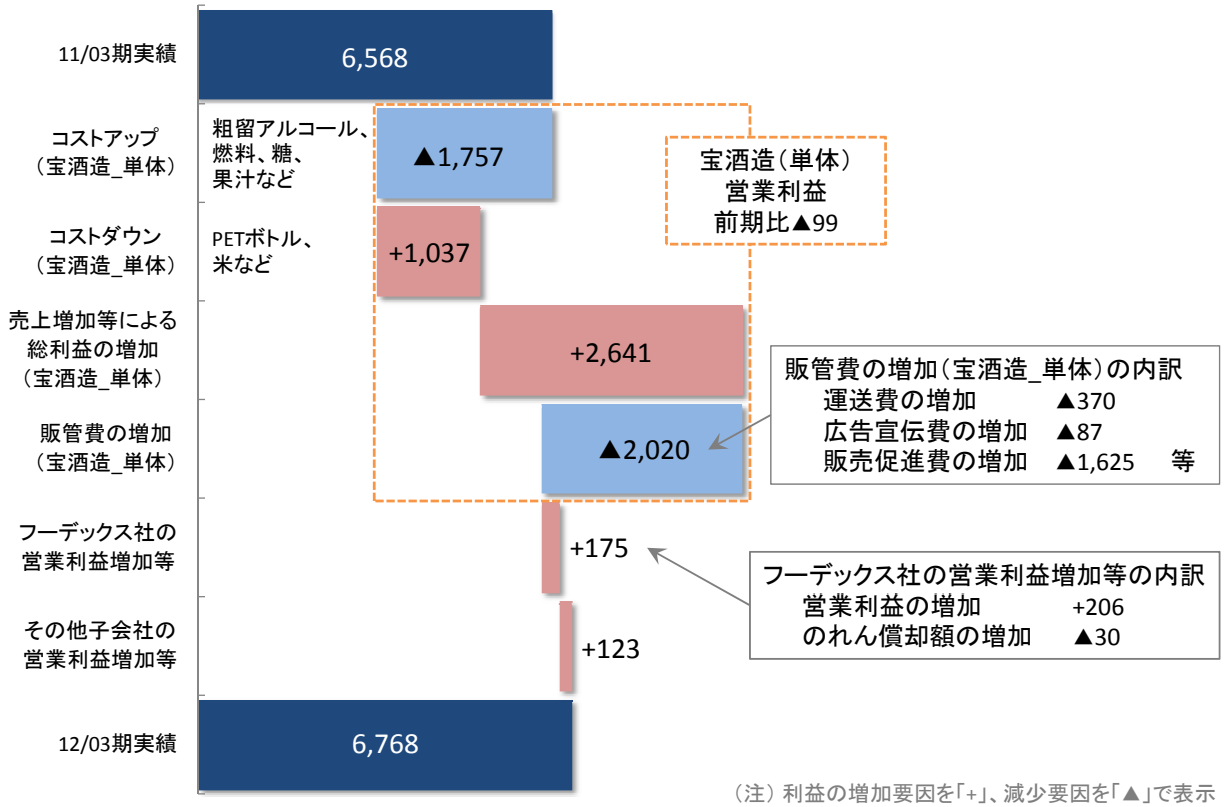
フーデックス社	+263

（注） 1/30予想は、2011年11月4日公表の業績予想（11/4予想）から当期純利益のみを修正（法人税率の変更を考慮）したものであり、売上高・営業利益・経常利益につきましては、11/4予想を変更しておりません。

宝酒造G_営業利益増減分析（2012年3月期）

◆前期比

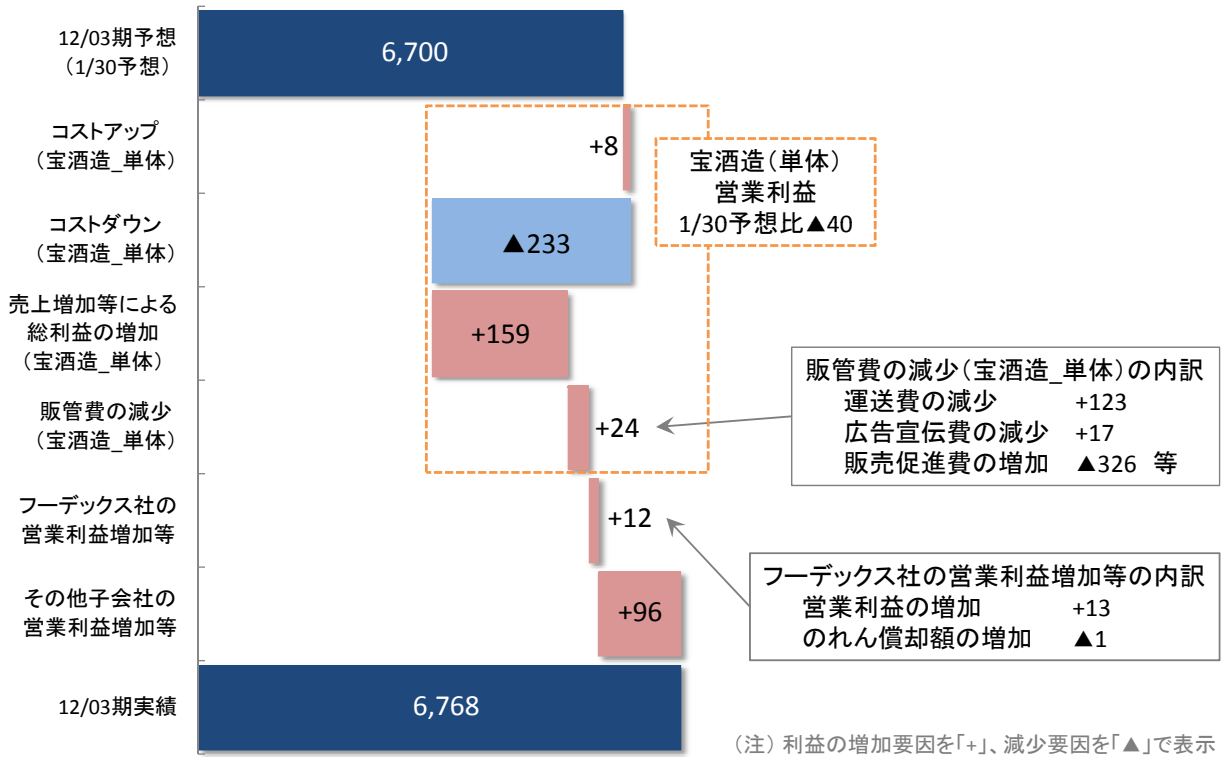
（単位：百万円）



（注）利益の増加要因を「+」、減少要因を「▲」で表示

宝酒造G_営業利益増減分析（2012年3月期）

◆1/30予想比　　（単位：百万円）



（注） 1/30予想は、2011年11月4日公表の業績予想（11/4予想）から当期純利益のみを修正（法人税率の変更を考慮）したものであり、売上高・営業利益・経常利益につきましては、11/4予想を変更しておりません。

宝酒造G_事業戦略

宝酒造グループ中期経営計画2013（2011.04~2014.03）

基本方針　国内は、酒類事業の収益力強化およびBtoB事業の拡大、海外は、日本食材卸販売網の構築に取り組む。

◆国内酒類事業

新商品の開発	ブランドの育成	収益力の強化
差別化品質を持った オリジナリティある新商品の開発	こだわりゾーンとスタンダードゾーンの双方で 多数の強いブランドを育成	利益マネジメントの強化と、 業務効率化の推進

安定的なキャッシュフローを生み出し、グループの成長を支える

◆調味料・酒精事業

加工業務用調味料事業の拡大	酒精事業の拡大
技術力に基づく商品開発と提案営業で 顧客の課題解決に貢献	新たなスキームによる事業成長と 競争優位性の確立による収益力強化

組織統合効果の追求

顧客対応力を強化し、BtoBビジネスを事業の柱として中長期的に拡大

◆海外事業

海外酒類事業の拡大	日本食材卸販売網の構築
日本食レストラン市場におけるシェアアップと 量販チャネルにおける間口拡大	海外における 販売網を構築・拡大

日本食文化を世界に広める

日本の酒類と食材を組み合わせた提案による、新規販路獲得・間口拡大

国内酒類事業

高齢化　人口減少　経済情勢の変化

胃袋マーケットの縮小　節約志向・デフレの継続

今後も、国内酒類市場は縮小が続くと予想される

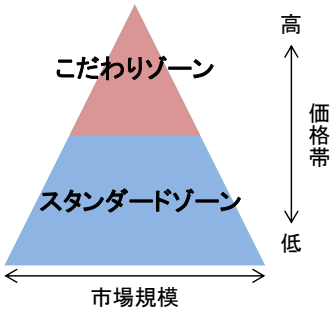
『強みを活かせる市場』で事業を伸ばす

強み

焼酎・清酒・ソフトアルコール飲料・調味料の各カテゴリーにおいて、
こだわりゾーン・スタンダードゾーンのそれぞれに、
『商品力』のあるブランドを多数ラインナップしている

『商品力』 ＝ 「技術力」 ＋ 「開発力」 ＋ 「育成力」

『技術』に裏付けられた差別化ポイントを持つ、
消費者に支持される商品を『開発』し、
その商品をしっかりと『育成』する



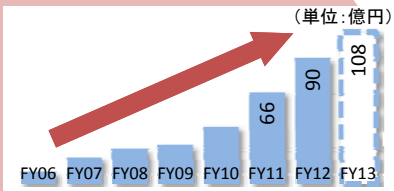
国内酒類事業　～焼酎～

		2012年3月期	2013年3月期
甲類焼酎	＜極上＞宝焼酎	➢ 中小容量を中心に商品ラインナップを拡充	➢ 宝焼酎100周年を機にブランド育成を加速
本格焼酎	よかいち	➢「黒よかいち」のラインナップを強化	➢「琥珀のよかいち」をラインナップに加え、ブランド育成を継続
本格焼酎	「一刻者」、「知心剣」	➢ テレビCMを開始するなどブランド育成を継続	➢ 飲み方提案などを継続し、取扱店のさらなる拡大を図る

国内酒類事業　～清酒～

		2012年3月期	2013年3月期
清酒パック	松竹梅「天」など	➢ エコパウチ入りの清酒市場を創造	➢ エコパウチのラインナップを強化
業務用市場	松竹梅「豪快」	➢ ＜生酒＞を発売し、ラインナップを強化	➢ 燗用・冷用の双方でブランド育成を継続し、飲食店におけるシェアアップを目指す
松竹梅白壁蔵	「澪」、「生酛」	➢ スパークリング清酒「澪」を発売	➢ 「澪」を食前酒として、「生酛」を食中酒として提案し、白壁蔵ブランドの育成を強化

国内酒類事業　～ソフトアルコール飲料、家庭用調味料～

		2012年3月期	2013年3月期
ソフトアルコール飲料	焼酎ハイボール	➢ テレビCMを開始するなどブランド育成を継続	➢ 100億円規模の売上を目指す 
ソフトアルコール飲料	直搾り	➢ リニューアルや限定出荷シリーズが寄与し、売上拡大	➢ 「くちどけ」シリーズを発売
家庭用調味料	本みりん、料理清酒	➢ 料理のための清酒＜純米＞を発売高付加価値調味料のラインナップを強化	➢ エコパウチ入りの料理清酒を発売

調味料・酒精事業

◆調味料（加工業務用）事業

こだわりと高付加価値訴求に向かうユーザーと調理の簡略化に向かうユーザーの双方のニーズに応え売上拡大を図る

- 惣菜や加工食品など、高齢化や共働きの増加を背景にニーズが高まる調理済食品のメーカーに対し、差別化された、ユーザーニーズに応える商品を提案

● 新商品の開発方針

機能強化に特化した差別化商品を開発

- 味わい付与機能
- 物性改良機能
- マスキング機能
- 香り付与機能

◆酒精（アルコール）事業

原材料（粗留アルコール）価格の高止まりに対応できるよう収益力を強化する

- 99%工業用アルコール市場に新規参入し、将来の成長のための原動力とする

● 99%工業用アルコール市場への参入

従来より販売していた95%アルコールに加えて、より付加価値の高い99%アルコールを発売

● 99%アルコールの主な用途	● 95%アルコールの主な用途
医薬品 化学製品 化粧品 etc.	アルコール製剤 食品・調味料 香料 etc.

海外事業

先進国での健康志向の高まり
新興国での所得水準の向上

日本食市場の拡大

海外酒類事業の拡大

海外清酒市場で圧倒的シェアNo.1への基盤構築

- 日本食レストラン市場での販売拡大とシェアアップ
- 量販チャネルの取扱間口拡大
- 高品質な清酒を世界に向けて安定供給

日本食材卸販売網の構築

販売網を構築・拡大し欧州市場における事業拡大を加速

- フーデックス社による欧州流通網の拡大
- 欧州の日本食レストランへのアプローチ強化

海外酒類・日本食材卸の両事業を通じて日本食文化を世界に広め、海外事業の拡大を図る

海外事業（海外酒類事業） ～米国宝酒造～

◆2012年3月期の決算概況

➢ 売上は順調に伸びたが、清酒製造設備の増強に伴う減価償却費の増加により減益

（単位：千USドル）	12/03期 実績	前期比 増減	前期比 率(%)
売上高	25,483	2,020	8.6
営業利益	1,142	△ 79	△ 6.5

（単位：百万円）	12/03期 実績	前期比 増減	前期比 率(%)
売上高	2,033	△ 26	△ 1.3
営業利益	91	△ 16	△ 15.0

◆2013年3月期の活動計画

➢ 清酒を中心とした増収とコストダウンなどにより、円ベースでも増益を目指す

	13/03期 予想	前期比 増減	前期比 率(%)
売上高	27,285	1,801	7.1
営業利益	1,458	315	27.6

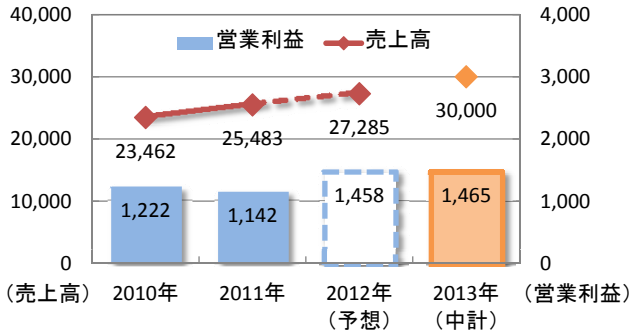
	13/03期 予想	前期比 増減	前期比 率(%)
売上高	2,046	13	0.6
営業利益	109	18	19.9

← 2011年全米日本酒歓評会（THE JOY OF SAKE）で米国産の清酒として唯一の「金賞」を受賞した「松竹梅クラシック」

● P/L換算レート（1$⇔円）

11/03期 実績	12/03期 実績	13/03期 予想
87.79	79.79	75.00

● 業績推移 （単位：千USドル）



海外事業（日本食材卸事業） ～フーデックス（本社：パリ）～

◆2012年3月期の決算概況

➢ 従来のエリア（パリ、南仏、スイス、イタリア）に加え、ベルギーにも販売網を拡大

（単位：千ユーロ）	12/03期 実績	前期比 増減	前期比 率(%)
売上高	37,924	15,579	69.7
営業利益	4,758	1,914	67.3

（単位：百万円）	12/03期 実績	前期比 増減	前期比 率(%)
売上高	4,213	1,682	66.5
営業利益	528	206	64.1

11/03期：2010年4-12月（9ヶ月）、12/03期：2011年1-12月（12ヶ月）

◆2013年3月期の活動計画

➢ 仏・リヨンに倉庫を新設し、欧州における販売網をさらに拡大

	13/03期 予想	前期比 増減	前期比 率(%)
売上高	43,700	5,775	15.2
営業利益	5,412	653	13.7

	13/03期 予想	前期比 増減	前期比 率(%)
売上高	4,370	156	3.7
営業利益	541	12	2.4

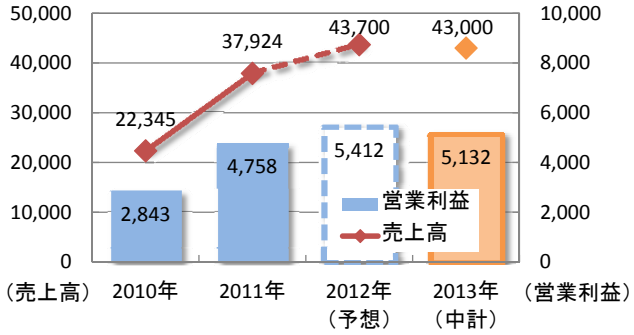
● P/L換算レート（1€⇔円）

11/03期 実績	12/03期 実績	13/03期 予想
113.28	111.11	100.00

➢ 同期間比較（2010年4-12月vs.2011年4-12月）

（単位：千ユーロ）	11/03期2Q-4Q 2010年4-12月	12/03期2Q-4Q 2011年4-12月	前期比 増減	前期比 率(%)
売上高	22,345	29,086	6,741	30.2
営業利益	2,843	3,619	775	27.3

● 業績推移 （単位：千ユーロ）



宝酒造G_2013年3月期 業績予想

（単位：百万円）	13/03期 上期予想	前期比 増減	前期比 率(%)	13/03期 通期予想	前期比 増減	前期比 率(%)
焼酎	35,600	△ 1,129	△ 3.1	72,800	△ 658	△ 0.9
清酒	7,800	435	5.9	21,800	832	4.0
ソフトアルコール飲料	14,400	△ 812	△ 5.3	27,400	674	2.5
その他酒類	5,000	85	1.7	10,500	△ 276	△ 2.6
本みりん	6,800	△ 84	△ 1.2	14,800	81	0.6
その他調味料	3,700	195	5.6	8,000	576	7.8
原料用アルコール等	2,600	△ 497	△ 16.1	6,200	△ 312	△ 4.8
その他	7,800	510	7.0	16,500	1,577	10.6
売上高	83,700	△ 1,296	△ 1.5	178,000	2,496	1.4
売上原価	53,200	△ 552	△ 1.0	111,800	1,345	1.2
売上総利益	30,500	△ 744	△ 2.4	66,200	1,150	1.8
運送費、保管料	3,200	△ 190	△ 5.6	6,800	74	1.1
広告宣伝費	2,000	179	9.9	3,700	357	10.7
販売促進費等	15,400	316	2.1	32,000	566	1.8
研究開発費	200	17	9.5	400	28	7.5
管理費、その他	7,900	△ 297	△ 3.6	16,300	△ 107	△ 0.7
販管費	28,700	25	0.1	59,200	919	1.6
営業利益	1,800	△ 769	△ 30.0	7,000	231	3.4

◆売上高の主な増減理由

（単位：百万円）

➢ 上期（1Q-2Q累計）

宝酒造単体の要因

＜焼酎＞
- 混和焼酎 ▲1,052

＜清酒＞
- 松竹梅「天」 +169
- 松竹梅白壁蔵 +254

＜ソフトアルコール飲料＞
- 焼酎ハイボール +743
- 直搾り ▲1,131

➢ 通期

宝酒造単体の要因

＜焼酎＞
- 焼酎乙類 +974
- 混和焼酎 ▲1,555

＜清酒＞
- 松竹梅「天」 +441
- 松竹梅白壁蔵 +559

＜ソフトアルコール飲料＞
- 焼酎ハイボール +1,804
- 直搾り ▲800

◆業績予想のポイント

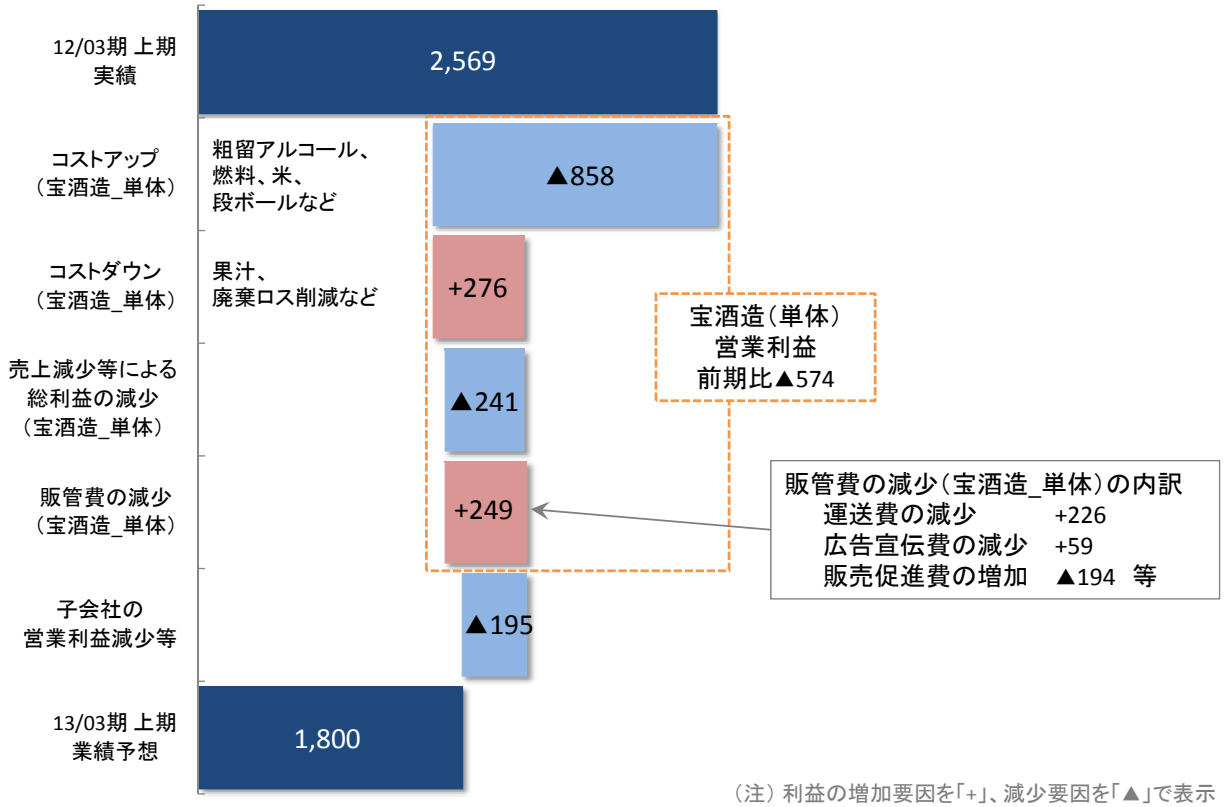
➢ 上期（1Q-2Q累計）は、家庭内飲酒需要の急増の裏返しによる減収・コストアップなどの影響により減益の予想。

➢ 既存商品の育成に加え、新商品を上乗せし、通期では、増収・増益を目指す。

宝酒造G_営業利益増減分析（2013年3月期 上期（1Q-2Q累計）業績予想）

◆前期比

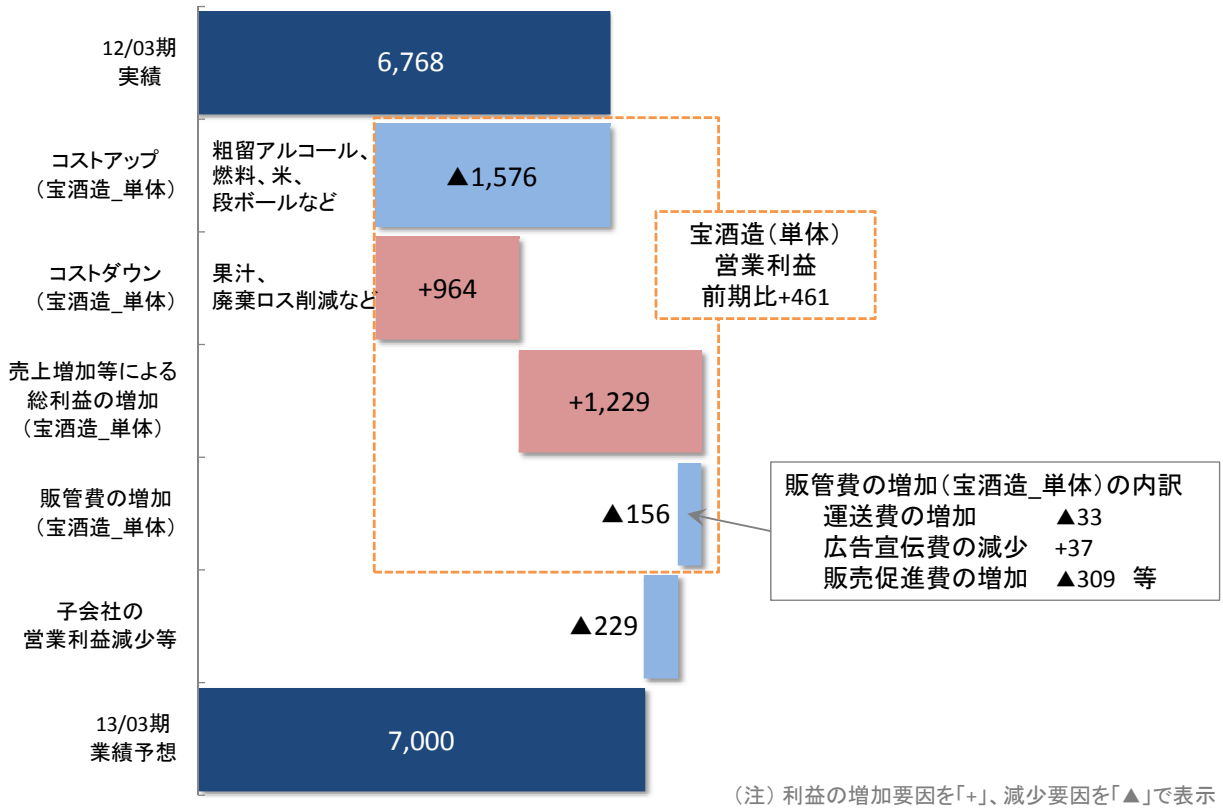
（単位：百万円）



（注）利益の増加要因を「+」、減少要因を「▲」で表示

宝酒造G_営業利益増減分析（2013年3月期 通期 業績予想）

◆前期比　　（単位：百万円）



（注）利益の増加要因を「+」、減少要因を「▲」で表示

3. 宝ヘルスケア社 概況

宝ヘルスケア社 概況

◆2012年3月期の決算概況

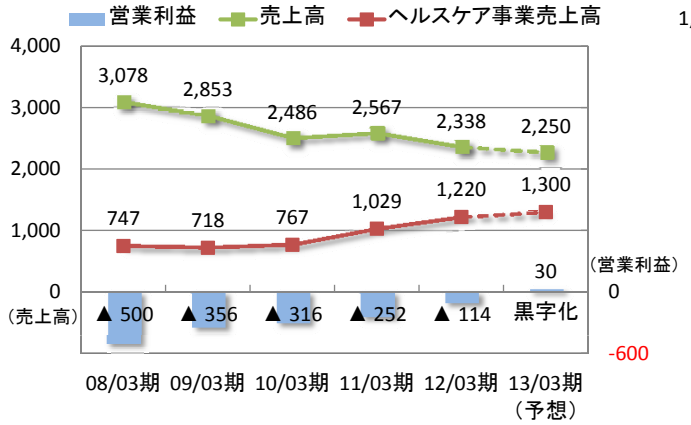
➢ 利益率の高いヘルスケア事業の売上を伸ばし、営業損失を改善

◆2013年3月期の活動計画

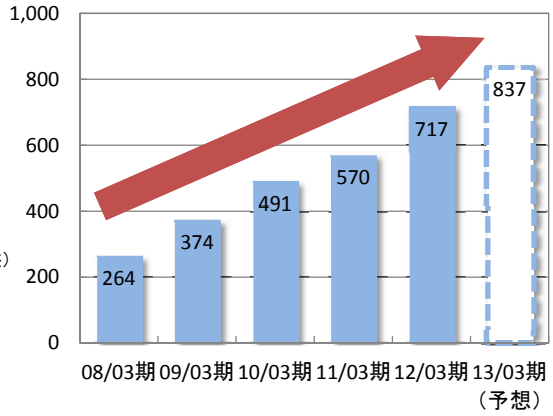
➢ ヘルスケア事業の柱である「フコイダン」シリーズの成長を加速させ、黒字化を目指す

	12/03期	前期比		13/03期	前期比	
（単位：百万円）	実績	増減	率(%)	予想	増減	率(%)
ヘルスケア事業	1,220	190	18.5	1,300	―	△ 100.0
その他	1,117	△ 420	△ 27.3	950	―	△ 100.0
売上高	2,338	△ 229	△ 8.9	2,250	△ 88	△ 3.8
営業利益	△ 114	137	-	30	114	-

◆宝ヘルスケア社の業績推移 （単位：百万円）



◆フコイダンの売上高推移 （単位：百万円）



4. 宝ホールディングス連結

2013年3月期 業績予想

宝HLD連結_2013年3月期 業績予想

（単位：百万円）	13/03期 上期予想	前期比 増減	前期比 率(%)	13/03期 通期予想	前期比 増減	前期比 率(%)
宝酒造G	83,700	△ 1,296	△ 1.5	178,000	2,496	1.4
タカラバイオG	9,562	920	10.7	21,100	1,521	7.8
宝ヘルスケア	1,250	△ 76	△ 5.8	2,250	△ 88	△ 3.8
その他	588	74	14.5	1,450	180	14.2
売上高	95,100	△ 378	△ 0.4	202,800	4,109	2.1
売上原価	58,900	316	0.5	123,900	2,437	2.0
売上総利益	36,200	△ 695	△ 1.9	78,900	1,671	2.2
販管費	33,600	30	0.1	69,400	1,436	2.1
宝酒造G	1,800	△ 769	△ 30.0	7,000	231	3.4
タカラバイオG	413	19	5.0	1,600	52	3.4
宝ヘルスケア	3	89	-	30	144	-
その他	384	△ 64	△ 14.3	870	△ 193	△ 18.2
営業利益	2,600	△ 726	△ 21.8	9,500	235	2.5
営業外収益	450	△ 23	△ 4.9	950	△ 124	△ 11.6
営業外費用	450	102	29.4	800	77	10.8
経常利益	2,600	△ 851	△ 24.7	9,650	32	0.3
特別利益	―	△ 214	-	900	453	101.7
特別損失	200	△ 1,194	△ 85.7	1,600	126	8.6
税引前当期純利益	2,400	128	5.7	8,950	359	4.2
法人税等	1,100	△ 94	△ 7.9	3,850	△ 323	△ 7.8
少数株主利益	100	△ 17	△ 14.8	500	78	18.5
当期純利益	1,200	240	25.0	4,600	604	15.1

◆業績予想のポイント

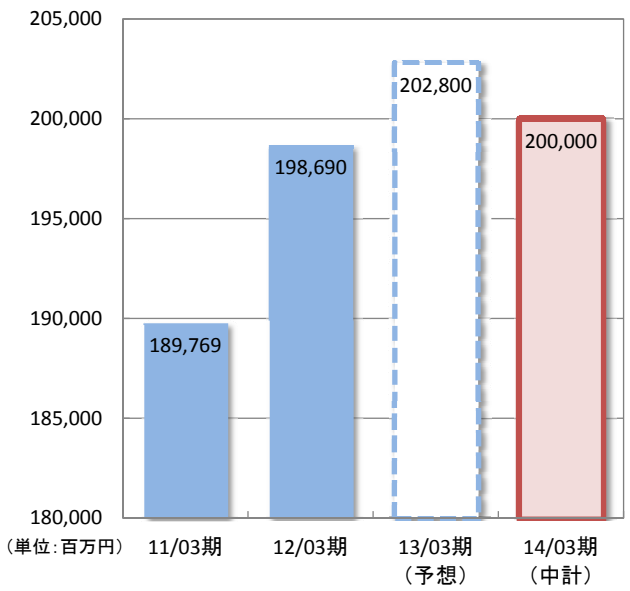
- 上期（1Q-2Q累計）
  宝酒造グループの減収・減益により、連結売上高・連結営業利益は減収・減益の予想。
  四半期純利益については、特別損失（震災による損失など）の減少により増益の予想。
- 通期
  宝酒造グループ、タカラバイオグループともに増収となり、連結売上高も増収の予想。
  営業利益は、宝酒造グループ、タカラバイオグループともに増益、宝ヘルスケアも黒字化し、増益の予想。

中期経営計画2013定量目標のレビュー

◆売上高

目標：2014年3月期　2,000億円以上

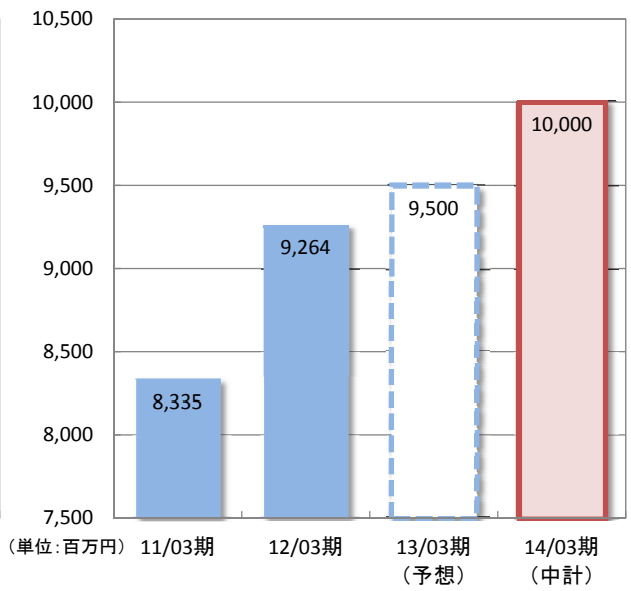
- 中期経営計画2年目の2013年3月期に達成の計画



◆営業利益

目標：2014年3月期　100億円以上

- 中期経営計画の最終年度に向けて増益を目指す



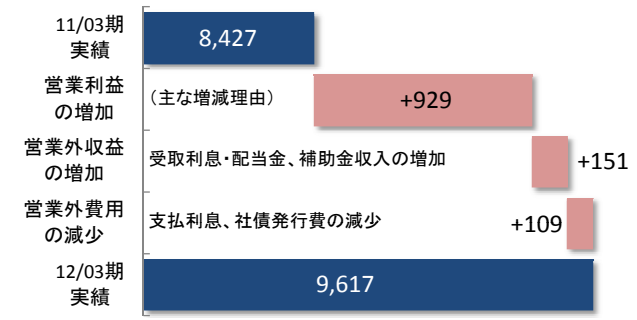
＜参考資料＞

宝HLD連結_包括利益計算書（2012年3月期）

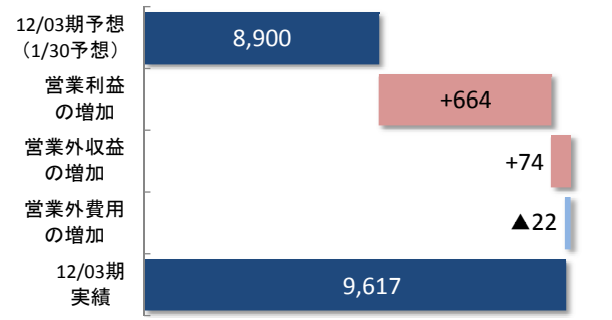
（単位：百万円）	11/03期 実績	12/03期 実績	増減
少数株主損益調整前当期純利益	4,042	**4,417**	374
その他の包括利益合計	△ 3,570	**△ 839**	2,731
その他有価証券評価差額金	△ 1,260	**53**	1,313
繰延ヘッジ損益	△ 40	**17**	57
為替換算調整勘定	△ 2,227	**△ 892**	1,335
持分法適用会社に対する持分相当額	△ 42	**△ 18**	24
包括利益	471	**3,577**	3,106
（内訳）			
親会社株主に係る包括利益	633	**3,314**	2,681
少数株主に係る包括利益	△ 161	**263**	424

宝HLD連結_経常利益・当期純利益増減分析（2012年3月期）

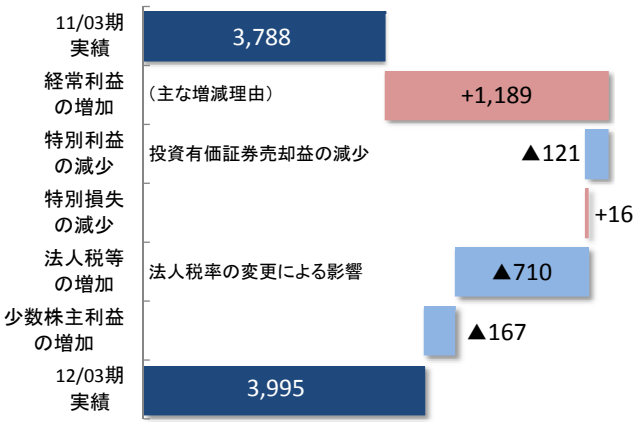
◆経常利益_前期比　（単位：百万円）



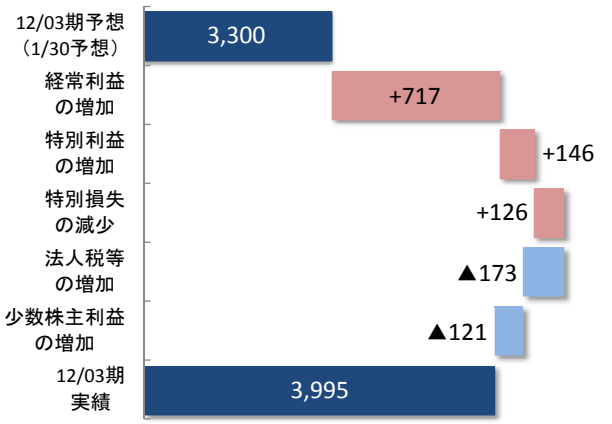
◆経常利益_1/30予想比　（単位：百万円）



◆当期純利益_前期比　（単位：百万円）

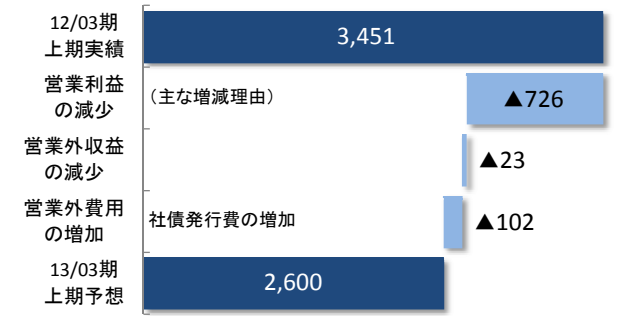


◆当期純利益_1/30予想比　（単位：百万円）

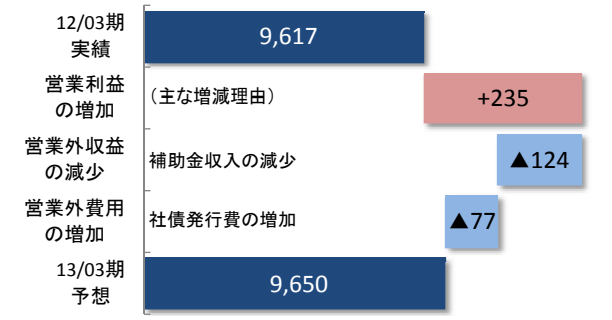


宝HLD連結_経常利益・当期純利益増減分析（2013年3月期 業績予想）

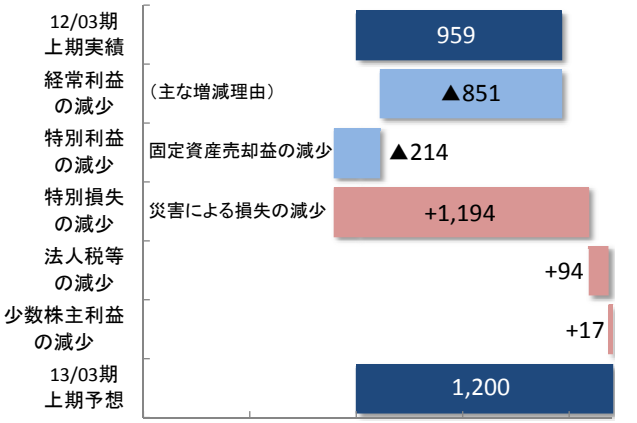
◆経常利益_上期（1Q-2Q累計）　（単位：百万円）



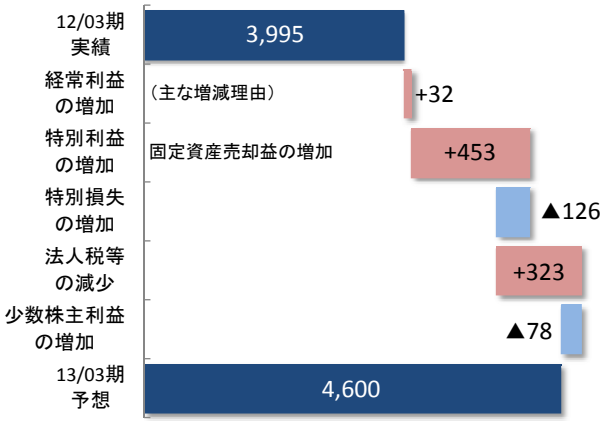
◆経常利益_通期　（単位：百万円）



◆四半期純利益_上期（1Q-2Q累計）　（単位：百万円）



◆当期純利益_通期　（単位：百万円）



宝HLD連結_B/S概要：資産（2012年3月期末）

（単位：億円）	11/03末	12/03末	増減
流動資産	1,197	1,260	63
現金及び預金	327	308	Δ 19
受取手形及び売掛金	451	507	56
有価証券	126	156	29
たな卸資産	242	244	1
その他	48	43	Δ 4
固定資産	727	713	Δ 13
有形固定資産	416	419	3
無形固定資産	60	52	Δ 7
のれん	40	35	Δ 4
その他	20	17	Δ 3
投資その他資産	250	241	Δ 9
投資有価証券	185	184	Δ 0
その他	65	56	Δ 8
資産合計	1,924	1,974	49

◆主な増減理由　（単位：億円）

- 流動資産 現金及び預金：TH Δ26.4　TS +2.7　TB +4.5
- 流動資産 受取手形及び売掛金：TS +48.7　TB +8.1
- 流動資産 有価証券：TH +10.0　TS +10.6　TB +9.2
- 流動資産 たな卸資産：TS Δ1.2　TB +2.1
- 固定資産 有形固定資産・無形固定資産：当期の有形・無形固定資産の増減内訳
  - 新規取得　+53.3（TS +27.4　TB +9.2）
  - 減価償却　Δ44.3（TS Δ32.2　TB Δ10.7）
  - その他増減　Δ13.4

（TH：宝HLD、TS：宝酒造グループ、TB：タカラバイオグループ）

宝HLD連結_B/S概要：負債・純資産（2012年3月期末）

（単位：億円）	11/03末	12/03末	増減
流動負債	414	512	97
支払手形及び買掛金	134	139	4
借入金・社債	51	100	48
その他	227	272	44
固定負債	441	385	Δ 55
借入金・社債	255	204	Δ 50
その他	185	180	Δ 5
負債合計	855	897	42
株主資本合計	963	975	11
資本金・資本剰余金	164	164	Δ 0
利益剰余金	857	880	22
自己株式	Δ 58	Δ 69	Δ 10
その他包括利益累計額	Δ 20	Δ 27	Δ 6
少数株主持分	125	128	2
純資産合計	1,068	1,076	7

◆主な増減理由　（単位：億円）

- 流動負債 支払手形及び買掛金：TB +4.9
- 流動負債 借入金・社債：TH 第8回普通社債 +50.0（2012年9月償還）
- 固定負債 借入金・社債：TH Δ50.0（第8回普通社債→流動負債へ）
- 株主資本合計 利益剰余金：TS +11.3　TB +10.2
- 株主資本合計 自己株式：TH 自己株式取得 Δ10.7
  - 2011年11月-12月に市場買付にて取得（株主還元策）
  - ・取得株数　2,200,000株
  - ・取得金額　1,070,457,000円

（TH：宝HLD、TS：宝酒造グループ、TB：タカラバイオグループ）

宝HLD連結_キャッシュ・フロー（2012年3月期）

（単位：億円）	11/03期 実績	12/03期 実績	増減
営業CF ①	94	90	△ 4
税金等調整前当期純利益	75	85	10
減価償却費	45	44	△ 1
その他償却費	5	5	△ 0
のれん償却額	2	2	0
売上債権の増減（△：増加）	9	△ 57	△ 67
たな卸資産の増減（△：増加）	△ 4	△ 4	△ 0
仕入債務*の増減（△：減少）	△ 4	30	35
法人税等の支払額	△ 36	△ 25	11
その他	1	8	7
投資CF ②	△ 113	△ 47	65
固定資産の取得	△ 31	△ 44	△ 12
固定資産の売却	0	6	5
有価証券・投資有価証券の取得	△ 36	△ 20	15
有価証券の売却・償還	22	16	△ 5
投資有価証券の売却	8	0	△ 8
関係会社株式・出資金の取得	―	△ 0	△ 0
関係会社株式・出資金の売却	0	△ 0	△ 1
連結範囲の変更を伴う子会社株式・出資金の取得等による支出	△ 33	―	33
その他	△ 44	△ 5	38
フリーCF ①+②	△ 18	42	60

*仕入債務には未払酒税を含む

（単位：億円）	11/03期 実績	12/03期 実績	増減
財務CF	△ 31	△ 32	△ 0
配当金の支払	△ 17	△ 17	0
自己株式取得・売却	△ 12	△ 10	1
ファイナンスによる収入	100	△ 0	△ 101
ファイナンスによる支出	△ 100	△ 0	99
その他	△ 2	△ 2	△ 0
現金及び現金同等物増減	△ 52	7	60
現金及び現金同等物残高	283	291	7

為替前提（子会社P/L換算レート）

（単位：円）	11/03期 (10年1月-12月) 実績	12/03期 (11年1月-12月) 実績	前期差	13/03期 (12年1月-12月) 予想	前期差	中期経営計画 (12/03期-14/03期) 想定レート
ドル	87.79	79.79	-8.00	75.00	-4.79	80.00
ポンド	135.53	128.01	-7.52	115.00	-13.01	130.00
ユーロ	116.28	111.11	-5.17	100.00	-11.11	110.00
元	12.96	12.35	-0.61	12.00	-0.35	12.50
100ｳｫﾝ	7.59	7.21	-0.38	6.70	-0.51	7.00
ｲﾝﾄﾞﾙﾋﾟｰ	―	1.67	―	1.60	-0.07	―

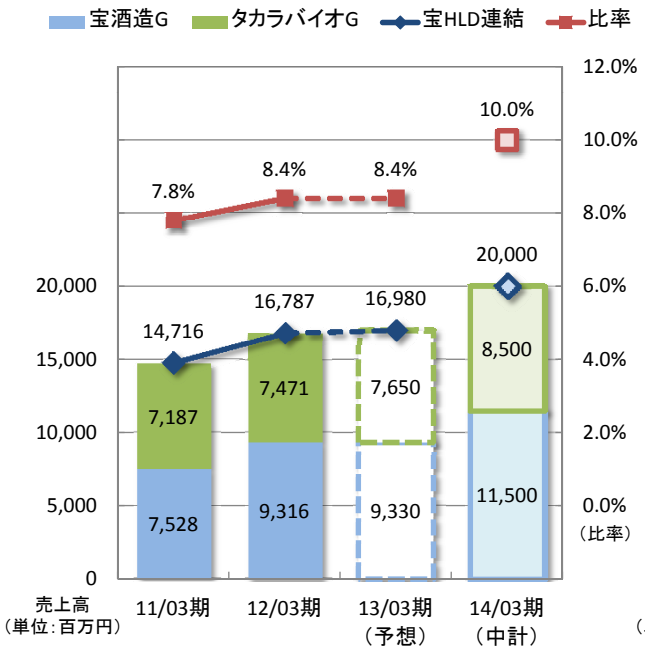
2011年5月6日-12月末の平均レート

【フーデックス社の11/03期P/L換算レート】
1€=¥113.28（2010年4-12月平均レート）

海外売上高比率・成長事業＋育成事業売上高比率

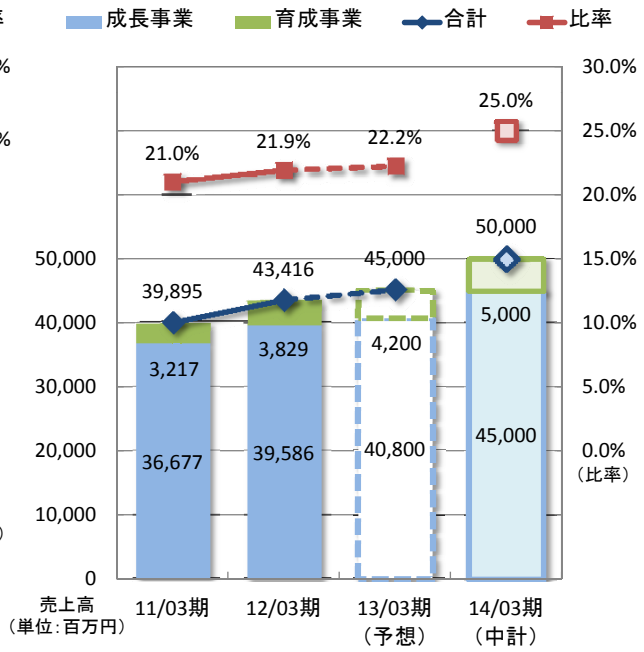
◆海外売上高比率

中期経営計画目標値
2014年3月期　10%以上



◆成長事業＋育成事業売上高比率

中期経営計画目標値
2014年3月期　25%以上



株主還元について

◆TaKaRaグループ中期経営計画2013　（2011.04~2014.03）の財務方針

財務方針　健全な財務体質を維持しながら、成長・育成事業への投資と、積極的な株主還元を実施し、ROE（自己資本利益率）の向上を目指す。

健全な財務体質の維持

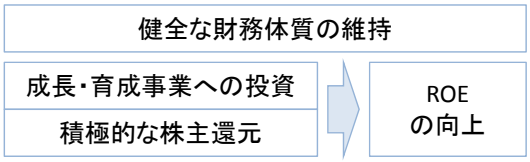
◆格付「シングルA」の維持

成長・育成事業への投資

◆成長事業と育成事業に対して優先的に投資

積極的な株主還元

◆配当と自己株式取得を合わせ株主還元性向50%以上を実施



$$\text{株主還元性向} = \frac{\text{株主還元総額（配当総額＋自己株式取得総額）}}{\text{みなし連結当期純利益*}} \geqq 50\%$$

*みなし連結当期純利益＝（連結経常利益－受取利息・配当金＋支払利息）×（1－法定実効税率）

利益成長と自己資本のコントロールにより、ROEの向上を目指す

資料中の当社および当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。
実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

＜お問合せ＞
宝ホールディングス株式会社　財務・IR部
Tel. 075-241-5124
E-Mail　ir@takara.co.jp